

トラック 9-3

この話はバナワシとムクル・シンバの話。彼らは殆ど兄弟同然の親しい友人で、二人は共に労働者だった。彼らは助け合って、色々な手仕事をした。彼らはそれぞれ畑を耕した。彼らは土地を拓き、それを休ませ、植えるための様々な植物を買った。

植える最初の日、彼らはバナワシの土地から始めた。バナナはすぐに根付き、マニョックも同様だった。ムクル・シンバの土地を植える週になると、バナワシは言った。

「植え方を変えて、君のところの収穫が早くなるようにしよう」。

友人は同意し、彼らは根を地上に、食べられる先を地中に埋めた。

何週間か経ち、バナワシの畑はよく育ち、ムクル・シンバの土地は枯れた。

「どういうわけで、僕の作物は枯れて、君の方は生きているのだろう？」。

「それは君が不運だからさ。それ以上、わかろうとしない方がいい。僕はバナワシで君はムクル・シンバなんだ」。